



グループに分かれて話し合う

ミンダナオの人々と「ともに」平和をつくる

<紛争地の子どもたちの事業：担当職員からのレポート>

ミンダナオ中部事務所で、今年8月から平和構築事業を担当している松浦です。約40年間紛争を続けてきたモロイスラム解放戦線(MILF)とフィリピン政府との間で「包括和平合意」が結ばれてから、1年半が経ちました。以来、「バンサモロ自治政府」の設立に向け、その骨格を定める「バンサモロ基本法」の審議が行われています。

アイキャンは、その当事者であるMILFを対象に、紛争調停能力を高めるための研修を実施しています。8月24日～26日に行われた第1回研修では、『平和の伝達と普及』をテーマにしました。この理由は、今年1月に国家警察の特殊部隊とMILFの間で武力衝突が起き、それを契機に和平合意に対して疑念を抱く人々が増えていく中、スタッフと話し合い、「今必要なのは、和平プロセス及びバンサモロ基本法の重要性を社会へ発信していくことだろう」と判断したためです。

研修では、計30名の参加者から、バンサモロ基本法の支持を訴える具体的なアイデアが出されました。20代の参加者グループは、「バンサモロ基本法が成立しなければ、再び情勢が悪化し、女性や子どもたちが被害を受けることになる」と訴えるポスターを作りたい」と提案しました。それに対し、アブバカルさん(39歳)は、「たとえ法案の成立及び履行が無理だったとしても、再び紛争に戻るわけではない。MILFは平和を求め、戦争を否定している。バンサモロ基本法の重要性を訴える際は、その点を明確にしなければいけないのではないか。」と意見を述べました。こうした活発な議論や講義を経て、アミルさん(32歳)は、「和平プロセスやバンサモロ基本法への不信感や疑念を払拭するために、自分たちに何ができるのか、自分たちの持っている能力を生かす方法や技術を学ぶことができた」と語りました。

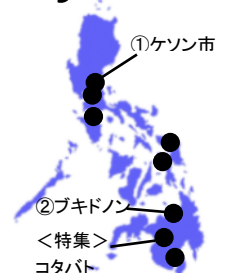
研修後、ティルソさん(39歳)が私に、「この研修を行ってくれたことに、非常に感謝している。アイキャンがこの地域で事業を行っていることが、我々の大きな力になっている」と話してくれました。私は今回、参加者たちが「アイキャンはミンダナオの人々と『ともに』いる」と感じていることを知り、「アイキャン、そして日本を含めた国際社会がミンダナオを見捨てていない」と示すことが重要だと感じました。

MILFを対象とした研修は全3回行われます。今後は、9月に『平和の文化と紛争』、10月に『紛争解決のための平和的手段』のテーマで研修を行い、MILFの紛争調停能力を高めていきます。



ミンダナオ中部事務所
松浦晶子(まつらあきこ)
～プロフィール～
英国国立セント・アンドリュース大学卒業後、韓国の国立ソウル大学校国際大学院へ進学。その後日韓三国協力事務局社会・文化部の研究員を経て、2015年8月より現職。

Project Site



※●はアイキャン活動地
※番号は裏面に対応

認定NPO法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須3-5-4 矢場町パークビル9階 TEL/FAX: 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

①ごみ処分場周辺の子どもたち(ケソン)

新メンバーへの技術訓練



フェアトレード生産者団体 SPNP が、メンバーを増やすため、5人の住民に対する技術訓練をしました。最初はなかなか思い通りに作れず苦戦していましたが、最後には全員が完成させることができました。参加したテルマさん(24歳)は、「テディベアの体を作るのは本当に難しかったですが、一つ作れた時は喜びに満ち溢れました。学びがあって楽しいです。」と話しました。(8月29日)

②先住民の子どもたち(ブキドン)

教室に明かりを!



パナソニック株式会社のプロジェクトの一環で、無電化村の7つの学校に、計90個のソーラーランタンを提供しました。これで、計654名の子どもたちが、雨や曇りの日の暗い教室でも、支障なく勉強できるようになり、教師たちも授業の準備がしやすくなります。校長のニラさん(58歳)は、「ソーラーランタンのお陰で、教育の環境が整備されました」と喜びを語りました。(8月11～18日)

今月の ICAN を増やす活動

スタディツアー・研修事業

8月5～9日、26～30日

交流を通して考えた、「私のできること」

夏のスタディツアーを2回開催し、計14名が、路上の子どもたちやごみ処分場周辺地域の住民と交流し、現地の課題について学びました。ツアー最終日前夜、『私のできること』として、「アイキャンの活動や自分が今回感じたことを、周りの人に伝えたい」、「マンスリーパートナーの毎月の寄付額を増やして、アイキャンに託したい」などの声が上がりました。プランCは9月9～13日に実施します。



インターン育成事業

8月7・18・21・24日

ニーズ調査で見えた課題

外務省の「NGO インターンプログラム」で、6月よりマニラ事務所に勤める石田が、「障がいを持った子どもたちの事業」に関するニーズ調査を行いました。国立盲学校等での聴き取りを経て、石田は、「なぜ教育を受けられる視覚障がい児が少ないのか、退学せざるを得ないのかが見えてきた。一人でも多くの障がい児が教育を受けられる社会を実現させられるようなプロジェクトを考えたい。」と報告しました。



今月の Topics

人道&緊急支援の国際基準トレーナー育成研修

8月24日～29日、東京で開催された「人道&緊急支援の国際基準トレーナー育成研修」に事務局長の井川が参加しました。アイキャンでは、引き続き、「アカウンタビリティと質」の向上に努めていきます。



今月の Media

8月27日 MILFの公式HP(www.luwaran.com) 「BLMI Training Centerにて実施した、国際人道法に関する研修」

8月30日 BS日テレ 「広瀬アリス×広瀬すず エシカルの贈りもの ～ハピネスをつくるデザイン～」 パヤタス訪問

★ youtubeで映像を見ることができます。 https://www.youtube.com/watch?v=hwNB_z9sz2E

今月の ICAN なる人

◎東さん、引っ越されても応援してください、ありがとうございます!

マンスリーパートナー 東良亮さん

「子どもたちがお腹いっぱい食べられるようになってほしい」

インタビュー:9月1日

私は、以前フィリピンのセブ島に遊びに行った時に多くの路上の子どもに会い、ショックを受けました。その2ヶ月後にフィリピンを大きな台風が襲い、綺麗だったフィリピンの自然や人々の生活が悲惨な状況になっているのをニュースで知り、日本にいても何かできることはないかと探して、アイキャンの街頭募金に参加するようになりました。何度か街頭募金等の活動に参加するうちに、実際に現地に行って活動を見てみたいと思うようになり、8月のスタディツアーに参加しました。

ツアーで特に印象に残っているのは、路上の子どもたちとの遠足です。子どもたちはとにかく元気で、子どもらしくはしゃいでとても可愛かったのですが、遠足が終わり日常の路上生活に戻ると笑顔が無くなり、目つきが変わってしまう子もいると聞き、悲しい気持ちになりました。また、昼食を食べに行ったファストフード店で、ほとんど食事に手を付けずに紙に包んで家族のために持ち帰る子がいました。私は、日本での活動を通して、フィリピンの現状やアイキャンの取り組みを頭では分かっていたけれど、実際に自分の目で見て感じ、大きな衝撃を受けました。

帰国後、今回出会ったような子どもたちがお腹いっぱいご飯を食べられるようになってほしいという思いを、自分の仕事を通して実現したいと思うようになりました。近い将来、その夢が実現するように毎日頑張っていこうと思います。仕事の関係で関東にいるため、日本事務局の活動には参加できませんが、これからもマンスリーパートナーとして応援し続けていきます。

